広島・呉・岩国

◆市民を欺く愛宕山米軍住宅建設にNO！

岩国では、八月一九日から愛宕山新住宅市街地開発事業の中止に伴う都市計画変更案について山口県による住民への縦覧が始まった。五月二七日には公聴会が行われ、一八人の市民が意見陳述を行い、全員が米軍住宅転用に反対する意見を述べた。この時点では、山口県も岩国市も、国（防衛省）に売ることしか発表せず、跡地がどう使われるかの具体的な案は一切出されなかったが、八月一八日の中国新聞に今年四月上旬には、すでに国が岩国市に対して民間空港再開の見返りに米軍住宅建設の了承を打診していたことが岩国市の内部資料から発覚したことが報じられた。

愛宕山周辺住民を中心とした「愛宕山を守る市民連絡協議会」が七月一四日に発足し、八月七日には一〇〇名近い市民が山口県に申入れを行ったが、明確な回答は得られなかった。

愛宕山開発事業は、岩国基地沖合を埋め立てる土砂搬出のために愛宕山を切り崩し、そこに新たな住宅都市を建設するという計画であった。

もともと沖合移設そのものが米軍機の騒音と墜落の危険を軽減する目的で始められたが、完成間近となって厚木から空母艦載機部隊の移駐案が明るみに出た。埋立目的が変わっているにも関わらず国も山口県も軽微な変更として、環境アセスメントのやり直しや住民への縦覧などを行わなずに変更承認処分が出された。それに対して岩国市民一八名が山口県を相手に埋立承認処分の取消請求訴訟を提訴し、これまで2回の口頭弁論が行われた。しかし、国は五月一四日、まだ埋立現場では地盤改良の重機が林立しているにもかかわらず埋立完了を意味する「竣功通知」を山口県に提出し、原告に訴えの利益がないと突きつけてきた。「公有水面埋立法」は明治時代に作られた法律で「国は悪いことはしない」という性善説に依拠している。まさに国によって法の悪用が行われているのである。これに対し、裁判所は本当に竣功したといえるのかの立証責任は被告である山口県にあることを認めた。第三回口頭弁論は九月九日に予定されている。

このように、国は山口県と一緒に二重にも三重にも岩国市民をだまし、新たに基地が拡張されようとしている。それに対し、岩国市民は今も艦載機移転に反対の意思を貫き、行動し続けている。

（大月純子／ピースリンク広島・呉・岩国）

札幌

◆デモでの逮捕者をめぐり議論

サミットが終わって、ちょっとボーッとしている。

「一万人の市民ピースウォーク」は、ほっかいどうピースネット、北海道平和運動フォーラム、平和サミット北海道連絡会で作った実行委員会が主催し、七月五日に大通り公園で集会をし、その後ピースウォーク（というかデモ）を行なった。このピースウォークに参加したサウンドデモ・グループに対して、警察が狙い打ちのような形で弾圧し三人を逮捕した。これについては、マスコミでも報道され、多くの人が書いている（このニュースを読んでいる人は、みんな知っているはず）ので繰り返さない。

ピースウォークで逮捕者が出た直後に、あるメーリングリストで小さな議論があった。

発端となったメールは「逮捕者が出たことで、環境、貧困、平和を真に訴えたいという意思が消されてしまった。主催者の指示に従わなかった一部の参加者がいた。主催者は、その人々に対して抗議声明を出すべきではないか」という内容。それに対する反論は、「デモ規制全体が過剰警備だった。国家権力に対する批判こそが重要だ」というもの。最初に投稿した人は「過剰警備が問題なのは、その通りだ。しかし、デモ隊の中に警察を挑発し、弾圧の口実を与えた人たちがいる。その結果、「デモは怖い」という印象を市民に与えることになった」と反論した。それに対する再反論は「統制がきかない若者がいても、大規模な破壊行為などに及ばない限り、それを許容すべきだ」というものだった。結局、議論は平行線のまま立ち消えとなった。

メーリングリスト上で議論をしている二人は、私の知人である。だから、二人の言い分も発想もよく分かる。というよりも、私自身の中に、この二人の考え方があって、時と場合によって、どちらかが表に出てくるという状態だったのだ。

「逮捕者は出さない」ことを一つの目的に準備し、警察との話し合いで「こちらが自主警備するから、絶対に参加者を逮捕しないように」と言ってきたし、ピースウォークの時は「警備役」をしていたので、悔しさと怒りがグチャグチャになっていたのだ。

あれから一ヶ月経ち、気持ちも整理されてきたので、九月初めに「9・11、アフガニスタン派兵に反対」のデモをやろうとしている。

（越田清和／ほっかいどうピースネット）

観測

関西

◆軍需産業事故隠蔽、「転地演習」

◆橋下知事は着任早々陸自中部方面総監部を表敬訪問。六月一七日には信太山駐屯地を視察、各種訓練を見学し隊員を激励した。着任前後から「国の専権事項に口を出すべきでない」と前岩国市長を非難した。最近は「伊丹空港廃止」「道州制実施」など、地元民の意向はどこへやら、それこそ国政に口を出している。

◆七月九日、三菱神戸造船所で潜水艦整備中、五人が重軽傷を負う。当初は「感電事故」と発表したが実は「火災事故」だったことが分かり、市消防局は会社側に火災を報告しなかったことに行政指導を行った。

先に陸自中部方面はヤマサクラ指揮所演習図を紛失しながら、隠蔽していたことが問題になった。こうした自衛隊隠蔽体質は巨大軍需企業もまた然りの観である。

神戸の三菱、川崎造船所は戦前から軍艦を建造。戦後、海自は潜水艦一六隻体制維持のため、更新潜水艦を三菱、川崎に交替で発注してきた。更新のたびに新型化されるが毎年一隻ずつどちらかが建造する。以前、造船所岸壁に五～六隻の潜水艦が係留されていた。修理かと思われたが、廃船・解体の引き取り業者がなかったようだった。

◆六月二〇日から七月一五日まで、伊丹の第3師団を中心に約一三〇〇人、車両や戦車一〇一三両ほか火砲や航空機など、陸路・海路・空路で北海道矢臼別演習場へ移動させる「転地機動演習」が行われた。もう七〇年代から実施されている「北方機動演習」だ。かつて「ソ連軍の北海道上陸」を想定し、全国からの移動集中作戦によるものだが、冷戦時代の「遺物演習」がいまだ続けられている。

九八年に運用化された揚陸艦「おおすみ」は、海自阪神基地から戦車・車両を積み北海道東岸に到着。同艦から発進する舟艇ＬＣＡＣで戦車・車両の上陸。このパターンの基本は各地方面隊とも現在も継続されたいる。米国輸入のＬＣＡＣは「おおすみ型」三隻体制のなかで六隻となったが、「山田洋行に騙された旧式だった」（週刊金曜日）と言われる。

（和田喜太郎／しないさせない戦争協力関西ネット）

沖縄

◆旧盆に飛ぶ米機、原潜寄港に間の抜けた県議会

八月に入ってからというもの、あちこちでカタブイ（片降り＝局地的スコール）に遭遇すること多く雨上がりの緑がまた眩しい。

旧盆一三日は御先祖様をウンケー（御迎え）する日、無粋な米軍が本島中部の陸に海に現れて住民のヒンシュクをかっている。朝から頻繁に飛ぶ空中輸送機やヘリ。しばらくするとホバリングやタッチアンドゴー訓練を繰り返し、四年前に墜落した沖国大周辺を旋回する。一九九〇年の約束では、「慰霊の日の様に特に意義のある日は騒音を最小限にするよう配慮する」ということで、該当する旧盆中の飛行は昨年までほとんどなかったそうだ。地元の自治会長は「こうした訓練は爆音訴訟で飛行差止めを命じない判決やメア米国総領事の考え方が表れたものだ」と批判する。

普天間飛行場の危険性除去について日米両政府が示した飛行経路の改善策は、地元の不評をかっており、防衛省は八月二八日から七日間の航跡調査を決めた。しかし短時日で宜野湾市を除外しての作業が、米軍のアリバイ作りに利用されかねない、との声しきり。

うるま市のホワイトビーチには原子炉の冷却水漏れ事故が発覚したヒューストンと同型の攻撃型潜水艦コロンブスが寄港。地元市議会が原因究明を求めて抗議決議を挙げ、市町会も寄港中止を求めている最中にだ。県はヒューストン以外の寄港は反対しないと腰が引けており、県議会に至っては、九月定例会で継続審議するという間の抜けた対応となっている。昨年の寄港回数は二四回と多く、時間も長くなっており、中国海軍潜水艦への監視強化の故と推測されている。今年はすでに二七回、うるま市は突出して多い理由の公表を求めている。

写真家・石川真生が今、県内全ての米軍基地を巡り、フェンスと周辺住民の写真を撮り続けている。金城芳子基金（女性の地位向上に貢献する活動を助成）の〇八年度対象に選ばれた。「県民があまり知らない基地のすがたを見せたい」と来年にも展示会を開く予定。乞う御期待！

（野口裕子／沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック）